

## 一般公開(那須)報告

テーマ「いってみよう 見てみよう 牛と草 ～安心・安全な畜産物は草地から～」として、10月19日(土)に開催した今年度の研究所公開は、初めての土曜日開催ということもあり、853名(記帳者数)の参加者を得て盛況となりました。

研究紹介コーナーは展示室に最新研究成果をパネルにして展示し、飼料イネサンプル、飼料見本、牛乳パック等の展示物を並べ、説明担当者を配置しました。昨今の食に対する安全性が問われている中、関連して色々な質問が研究者に出されておりまして、焼き肉コーナーでは、当所で飼育した肥育牛を用意し試食していただきました。試食者には普段調査することが出来ない肉の指向性についてアンケート調査をお願いし、結果については今後の研究に役立ていくことになっています。当研究所開発のドリンクヨーグルト、ハーブ牛乳の試飲コーナーでは、牛乳が苦手な人もハーブ牛乳なら飲める等の嬉しい声も聞こえました。三色卵、ハーブ苗、牛糞堆肥等



研究成果について説明する所員

について限定数で用意し、大好評でした。ソルガムのドライフラワーも沢山用意しましたが、家族での見学者が多く人気の品の一つで、終了時にはすっかり

なくなりまして。

ふれあいコーナーでは、普段、接することのない仔牛を用意し、参加希望のあった子供さんと仔牛



との写真をデジカメで撮り、プリクラを作成しました。ぬりえをあらかじめ近隣の幼稚園児に配布しておき、当日持参された子供さんにはマグネットシールにしてプレゼントを行いました。ロールベールの落書きコーナーも大変好評で、ロールの数が足りなくなる嬉しいハプニングも。ちびっ子画家によるカラフルな作品が並びました。

当所放牧管理部瀬川上席研究官の堆肥の話、同部假屋研究室長によるBSEについての講演会を行い、多くの方々の参加がありました。熱心に聴講され、難しい質問等も出て盛況となりました。

天候もまずまずといったところで、所員をはじめ筑波地区、御代田地区からの協力が得られ、那須地区の一般公開は成功裡に終了いたしました。今後も多数の方に当所の研究等を紹介する機会として一般公開が出来ればと考えております。

(情報資料第2課長 金井二三子)

## つくば科学フェスティバル2002報告

恒例になっている「つくば科学フェスティバル2002」が10月12日(土)～13日(日)の2日間に亘り、つくばカピオで65機関がそれぞれ科学実験・体験コーナー、観察・展示コーナー、科学相談コーナー等に参加し開催されました。



科学フェスティバル会場風景

このフェスティバルは青少年の科学に対する夢を育むため、研究学園都市各研究機関の研究者や教職員によるわかりやすい実験などをおして、科学の楽しさ、

大切さを理解し、科学に親しむ機会を提供することで、当所の出展は「人にやさしいミツバチたち」というテーマで、刺さないミツバチの刺し針と通常のミツバチの刺し針の顕微鏡での観察、ミツバチコロニーの展示、標本及びパネル・写真並びにハチミツ搾りの実演を行いました。なかでも実物のミツバチ観察特に女王バチの生態を知ることや、刺さないミツバチの役割等に興味を示されました。また、ハチミツの種類ごとの試食コーナーやハチミツ搾り実演コーナーでは来場者のほとんどが初めての体験ということで2日間に亘り大好評で終了いたしました。

今後とも、「科学のまちつくば」を子ども達に伝え、科学への理解と創造力を高めていくうえでも各研究部の協力をいただき、毎年このイベントに参加する必要があるのではないかと考えています。

(情報資料第1課長 岩田 茂)